

「令和2年度山梨県社会教育研究大会」令和2年11月27日(金)
於：市川三郷町生涯学習センター 多目的ホール

基調講演 『人と社会をつなぐ社会教育について』 青山鉄平氏(文教大学)

- 「スグキク」を用いた「リアルタイムコメント」体験 ⇔ 参加者100名超
- 「社会教育委員」を、他の方に、どのように説明されていますか？
→大変説明しにくいですね。

■講演の概要

1. 社会教育における「教育」と「学習」のかたち

(1) 社会教育の定義と社会教育らしさ

- ・社会教育は、教育の行われる「場」によって定義される。
→「学校」教育、「家庭」教育、それ以外が「社会」教育？
- ・学校とは異なる場で行われることが、さまざまな「社会教育らしさ」につながっている。
→教える人がいないが知らずに学ぶ。「仲直りの方法」のように。

(2) 社会教育における「教育」と「学習」を捉える視点

- ・「学習」を捉え直す：経験を通じた個人の変容全般

←一般的な学習のイメージ>…学校のイメージ？

- ① 教えられた結果として生ずる
- ② 学習者が意図的に行う
- ③ 他の行為から独立した活動である
- ④ 「よいこと」である

→ こうしたイメージよりも、学習を広く捉えることが必要。

- ・「教育」を捉え直す：学習を支援するための意図的な働きかけ
→「教えること」だけが教育とは限らない：学習支援という考え方…図書館
→ 多様な指導者・支援者が存在する
→ 自律的・相互的な教育/学習の場として、集団/団体が重要な意味をもつ

• 社会教育で望ましいとされてきた学習（者）のかたち

- ① 自発的であること
- ② 相互的であること
- ③ 多様であること
- ④ 学習以外の要素と関連したものであること

→ 社会教育は「教育」だけにとどまらず、**生き方や社会（地域）のあり方と直接的に結びつく**…生活と地域、人生を豊かにする

→ 学んだことをいつ使うのか？

- 学校教育 – いつか役立つ
- 社会教育 – 学びたいので学ぶ 学んだことを**今使う**

2. 社会教育が目指す「人づくり」と「地域づくり」の循環

(1) 「人づくり」と「地域づくり」の循環

○ 社会教育が目指す「人づくり」と「地域づくり」の循環とは

→ 「公民館」へ期待されたこと…**自助・共助・公助**、

→ 学習と生活のつながり

→ **住民同士が 学び 変わる 地域が変わる 中心に公民館**

○ 近年、改めて「地域づくり」の役割が期待される背景

→ 個人的/消費的な生涯学習への反省…**80～90年代の加チャセンターブーム**

→ 地域の教育力の活用と学校/子育て支援への期待

学びが地域につながらないとね 子育てにもつながらないとね

→ 人口減少と地方創生への関心の高まり

趣味サークルとしての繁栄から地域の発展へ

学びが、地域・公共の福祉につながるとステキ

➡ 「人づくり」と「地域づくり」の循環は、生涯学習・社会教育だけでなく、あらゆる行政分野や市民活動についても重要なはず

(2) 社会教育委員の存在意義…なぜいるの？

- 行政による間接的な支援：社会教育行政の基本は「求めに応じて」
 - サポート・バット・ノーコントロール
 - 戦前の教化・動員的な社会教育への反省
 - 民主的な住民自治のための自己教育・相互教育のための間接的な支援
 - 団体への補助金のチェックも重要な役割
- 市町村単位の取り組み：求められる社会教育は自治体ごとに違うはず
 - 地域の状況に応じた社会教育の取り組み（⇔ 学校教育の特性）
 - コミュニティスクールという発想の新しさと新しくなさ
- 社会教育行政と地域をつなぐパイプ
 - 日常生活と密着した学習
 - 地域と関連した学習、学習を通じた地域づくり
 - ➡ 「自治体の社会教育（行政）のあり方を住民自身が決める」ための、住民参加の仕組み
 - ➡ （学校とは異なる）社会教育の特性と関連したもの

3. 求められる「ネットワーク」や「コーディネート」

(1) 「ネットワーク」や「コーディネート」が重視される背景

- 生涯学習における学習の特性との関連から
- 行政改革・教育改革との関連から
 - 教育問題への対応、行政の効率化への対応、市民参加の推進
 - ・ 学校・家庭・地域の連携
 - ・ 教育行政と一般行政の連携（ネットワーク型行政）
 - ・ 行政と民間の連携（企業も、NPOも、市民活動も）
 - ・ 社会教育行政の基盤（ヒト・モノ・カネ）の弱体化 → ネットワークと成果の強調

(2)「ネットワーク」や「コーディネート」をめぐる課題…気をつけること

○「ネットワーク」や「コーディネート」が目的？

- ・ 本来、ネットワークもコーディネートも連携・協働も、手段に過ぎない
- ・ なのに、「ネットワーク」や「コーディネート」の目的や意味はあいまい

○ 目指すべき「地域づくり」ってどんなこと？

- ・ 「つながり/きずな」とは言うけれど
- ・ 地域のつながりがあるとどうなるの？ ないとどうなるの？
- ・ 『イメージ』が共有することの意味：ネットワークの前提

○ 社会教育にこそできる「地域づくり」ってどんなこと？

- ・ 様々な領域で「地域づくり」に向けた取り組みが行われている
→公民館や社会教育だけでない
- ・ 社会教育にこそできることとは何か：連携と存在意義のあいだで強みは何か？

○ そのために一人ひとりができることは？

- ・ 社会教育委員として、行政の職員として、住民として…

<まとめ>

- 社会教育の意義は伝えにくいし効果も検証しにくい。
それが魅力でもある。
- 社会教育については、お役所や地域のエライ人が「学びなさい」ではダメ。
住民が学ぶのを横からお手伝いし、一緒になってつくっていく教育。
- 社会教育委員は、立場上「公務員」。基本「住民」。
- 社会教育委員は、独任制（一人で委員）で、委員自体の知識も必要。
- 地域のことは、我慢できる範囲で収まることがよいこと。
地域で一緒に考えていくことが大切。
- 公民館は中学校区に一館。
公民館が核となって学校と他団体をつなぐことも大切。